

# 読書推進運動



公益社団法人  
読書推進運動協議会

〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町1-32  
出版クラブビル6階  
TEL 03(5244)5270  
FAX 03(5244)5271  
発行人 佐々木 泰  
編集人 片岡 伸子

No.685 =野間読書推進賞特集=



## 第54回 野間読書推進賞贈呈式

受賞者とその推薦者・関係者と、野間省伸会長、来賓、選考委員のみなさん



2024年(令和6年)

## 野間読書推進賞受賞者表彰(第54回)

☆受賞者

団体の部

・デイジー岩手

(岩手県)

個人の部

・勝冶 糸さん

(鹿児島県)

奨励賞

・明徳館ボランティアの会

(秋田県)

☆賞

賞状および賞牌

☆副賞

金三千万円(団体の部)

金二千万円(個人の部)

金五万円(奨励賞)

野間読書推進賞は、永年にわたって読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献された団体・個人を、全国から寄せられる推薦のなかから選り、顕彰するもので、毎年、「読書週間」の期間中に贈呈式が行われています。

× × ×  
本年の贈呈式は、11月7日(木)午前11時から、東京都千代田区の出版クラブビルにおいて、受賞団体の代表者および受賞者3名と推薦者など受賞者関係者、読書推進運動関係者の出席のもと開催されました。

式は野間省伸・公益社団法人読書推進運動協議会会長のあいさつで始まり、次に選考委員会を代表し、野上暁さんが選考経過報告を行い、野間会長より受賞者へ賞が贈呈されました。続いて、文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 図書館・学校図書館振興室 専門官 毛利るみこさんの祝辞のあと、各受賞者があいさつに立ちました。

贈呈式後の祝賀会では、勝冶さんご持参の奄美大島の黒糖焼酎がふるまわれ、また、鳥唄をバックに踊りも披露されるなど、受賞者と参加者一同が笑顔のうちに進行しました。

# 受賞者業績

## 《団体の部》

### デイジー岩手

住所 岩手県盛岡市  
会長 成田 優子 さん

完成するまでに1〜2か月をかけています。

デイジー岩手は、岩手県立点字図書館(当時)がデジタル録音図書(DAISY図書)編集奉仕員の養成を始めたのと同時期の1999年、同館の養成講座を終了した奉仕員9名により結成されました。以来、「視覚に障がいのある方々の役に立ちたい」の思いを持って、岩手県立点字図書館および現在の岩手県立視聴覚障がい者情報センターの運営に協力し、一貫してDAISY図書の製作・普及に取り組んでいます。

デイジー岩手がこれまでに製作したDAISY図書は、2023年度末までに5363タイトルに及びます。利用者の聞きやすさを考えながら、より使いやすい図書を作るための編集作業に根気と時間を費やしており、1タイトルが

編集機材の進化やソフトの

ヴァージョンアップにもその都度対応し、製作技術の向上のために毎月定例会を欠かさず開催。そうした努力もあり、製作したDAISY図書は使いやすいと好評を得ており、2023年度の貸出数は3724タイトル、ダウンロード数は2427タイトルで延べ4万6076人と、岩手県内外問わず、多くの方に利用されています。

また、県立視聴覚障がい者情報センターの主催行事での活躍も特徴です。毎年18回開催される「デジタル録音図書編集奉仕員養成講習会」のすべての講座で常時2名の会員が講師を務めており、録音図書製作活動普及イベント「奉仕員体験会」にも毎年協力するなど、後進の育成およびDAISY図書普及啓発活動にも積極的に取り組んでいます。

以上の活動が評価され、2023年度には「障害者の生涯

学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。

DAISY図書の製作により、全国の視覚障がい者の読書活動に長く貢献している団体として、これからも活躍が期待されています。

### 【推薦者】

社会福祉法人

岩手県社会福祉事業団

岩手県立

視聴覚障がい者情報センター

所長 大坊真紀子



## 《個人の部》

### 勝治 桑 さん

住所 鹿児島県大島郡龍郷町

勝治桑さんは、鹿児島県・奄美大島で長く教員として活躍し、退職した1986年からは6年間、龍郷町中央公民館の館長を務めました。公民館館長時代には、読書活動の支援に力を入れ、地域での移動巡回図書を始めました。この移動巡回図書は、現在も公民館事業として継続されています。

公民館館長を退職してからは、子ども読書環境を整備し、読書の楽しさを伝えたいと、1996年に読書グループ「にじいろの花」を立ちあげて、以来、グループのリーダーとして活躍しています。勝治さんはグループの一員として、90歳を超えた現在も、龍郷町の大勝小学校で毎週1回、朝の時間の読み聞かせを担当しています。毎年、読み聞かせの初回には、新1年生全員に絵本をプレゼントすることを長年続けています。

地域での活動は小学校だけでなく、どまらず、コミュニケーションづくりを目的とした即興劇やかぶりものを使った演目を披露したり、

地域行事の由来について語り聞かせを行ったりするなど、伝統と現在・未来をつなぐ役割も果たしています。また、龍郷町の外にも出向き、読書グループからのさまざまな相談にも答えています。今年、2024年7月には、奄美大島島内で開催された教職員の研修会で、読書推進活動の実践発表を行いました。

「愛し子が百年を生きる道を築こう。一枚の写真の前に、祖母の世のこを母が語った。そのことを今、私が生かすに話している。やがてわが子どもがそのことを愛し子に語り聞かせてくれることを想像すると、今を美しく語り継ぎたい」と、子どもたちが、世間や歴史に興味を持って、人との関わりを大切してくれるように願いながら歩んできた勝治さんの実践は、龍郷町、奄美大島の読書推進に大きな影響をもたらしています。

### 【推薦者】

鹿児島県読書推進運動協議会

会長 東條広光

〔奨励賞〕

明德館  
ボランティアの会

住所 秋田県秋田市  
総代表 青木美貴子 さん

明德館ボランティアの会は、秋田市立中央図書館明德館を拠点に活動する団体です。活字を読むことが困難な方への対面朗読などの「レモンの会」、子どもを対象とした実演活動の「おはなしの会」、返却図書棚戻しなどの「書架整理グループ」、破損図書を修理する「補修グループ」、大型紙芝居制作の「創作グループ」の5つのグループで構成されており、2024年4月現在の会員数はのべ111名です。複数のグループに所属する会員も多く、事務局には各グループからかならず1名以上が参加するなど、協力しあい、多方面から秋田市民の読書活動を支えています。

最初に発足したのは「レモンの会」で、1983年の中央図書館開館と同時に、図書館の要請を受けて朗読奉仕活動を開始しました。その翌年から秋田市婦人奉仕活動育成講座が始まり、図書館ボランティアを養成。1985年

に「おはなしの会」「補修」「創作」「書架整理」の活動が始まり、1987年にこれら5グループの正式名称が「明德館ボランティアの会」となりました。その後、県内外のボランティア団体との交流、研修を重ね、会員を増やし活動内容を充実させ、1992年に全体の調整機能を担う事務局も設置されました。

5グループと事務局あわせての年間活動日と活動参加者数は非常に多く、各グループと事務局でスケジュールを調整し、一人ひとりが長く活動できるよう協力しあっています。会員たちも事務局が企画する研修会や交流会、外部研修への参加で、技術や意識の向上を図っています。

おもな活動場所は中央図書館ですが、来館者以外を対象とした活動も多く、「レモンの会」は来館がむずかしい利用者へのテレフォンスービスを実施、「書架整理」「補修」は中高生への指導や小学生対象ボランティア講座の講師を担当、「おはなしの会」は市内保育園・幼稚園・認定こども園などで出張おはなし会を開催しています。「創作」は地域の歴史を題材としたオリジナル作品のほか、「明德館こんわ会」が募集したおはなしを原

作したものなど多彩な大型紙芝居を作り、その作品は中央図書館に所蔵され、市内の実演グループに広く利用されています。

2004年には、中央図書館と共同で『図書館ボランティアの未来へ向けて！図書館とボランティア調査報告書』を発行。秋田県内外の図書館ボランティア団体へのアンケートと訪問調査を行い、図書館づくりとまちづくりの関係、自治体によるボランティアのあり方の違いなどを考察してまとめました。

明德館ボランティアの会は、中央図書館とともに40年間、そしてこれからも、秋田市民の読書活動を支えていきます。

【推薦者】

秋田市立中央図書館明德館  
館長 佐藤 涉



【左】贈呈式会場の様子  
【右】受付では出版クラブライブラリーの本が参加者を迎える



祝賀会でのスピーチ  
【左】国立国会図書館国際子ども図書館の上保佳穂館長  
【右】伊藤忠記念財団の池辺昌和専務理事

### ★受賞決定までの経過

●2024年(令和6年)5月15日

☆選考委員  
全国都道府県教育委員会委員長  
および教育長、都道府県中央図書館および読書推進運動協議会のほか、全国市町村教育委員会連合会、日本PTA全国協議会、日本新聞協会、日本放送協会、日本民間放送連盟などに候補者推薦を依頼しました。

●2024年(令和6年)7月31日

候補者推薦締切。推薦数は15団体、2個人。

●2024年(令和6年)8月26日

野間読書推進賞事業委員会による選考準備委員会を開催。各候補者への評価・その理由を討議し、10団体2個人を選出。これについて事務局はさらに実情調査などの結果をまとめ、選考委員会に提出しました。

●2024年(令和6年)9月13日

選考委員会を開催。慎重な審査の結果、1団体1個人の野間読書推進賞、1団体の野間読書推進奨励賞受賞を決めました。

☆選考委員  
秋本 敏

公益社団法人 日本図書館協会  
図書紹介事業委員会 委員長  
黒木義博

公益社団法人 全国学校図書館協議会  
読書活動振興プロジェクト担当  
野上 暁

児童文学・文化研究者  
一般社団法人 日本国際児童図書評議会 副会長  
(五十音順・敬称略)



選考経過報告をする野上暁さん

### ★野間読書推進賞について

公益社団法人 読書推進運動協議会は、出版界と読書界との協働をはかり、広く国民各層に対し、読書の普及を促進し、もってわが国の文化と社会の進展に寄与することを目的として、1959年に創立。以来、「読書週間」をはじめ多くの事業を行っております。「野間読書推進賞」は、「読書週間」の関連事業として1971年に創設したもので、地域・職域などにおいて、永年にわたって読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献された団体・個人を顕彰してまいりました。

この賞は、故野間省一株式会社

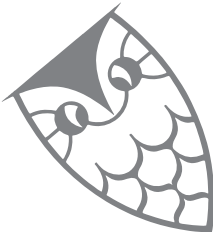


祝賀会の乾杯の発声は秋本敏さん



高校生の小池さんと談笑する黒木義博さん

社 講談社元社長より、1969年に読書推進運動協議会の社団法人設立を機に基本財産として金1千万円、1979年には講談社創業70周年を記念して金1千万円、さらに1987年には講談社創業80周年を記念して金2千万円の寄付を受け、この基金を中心に贈呈するものです。また、2022年にも講談社より金2千万円の寄付を受けています。第1回から第14回までを「読書推進賞」と称し、1985年(第15回)から、故人の遺徳を偲んで「野間読書推進賞」と改称しました。





# 挨拶と祝辞



## 贈呈式 主催者あいさつ

公衆団法人 読書推進運動協議会  
会長 野間 省伸

本日「野間読書推進賞」を受賞されるみなさま、本当に、おめでとうございませう。

ご選考にあられた秋本敏さま、黒木義博さま、野上暁さまのお三方、本当にありがとうございます。

今年も受賞者にそろってご出席をいただき、贈呈式と祝賀会を開催できる運びとなりました。お忙しいなか、ご列席くださいましたみなさまに厚くお礼申しあげます。

「野間読書推進賞」は、長く読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献してこられたみなさまに對して贈られます。1971年に始まり、今回、第54回を迎えました。本日は本賞1団体・1個人、

奨励賞1個人を顕彰いたします。受賞者は、トータル249の団体・個人の方々となりました。

また現在、第78回 読書週間が開催中です。今回の標語は「この一行に逢いにきた」です。ポスターは例年、標語イラストともに公募によって制作をしていますが、今年はいよいよ好評をいただいております。各地の図書館さま、書店さま、学校図書館さま、そして地域で読書推進活動にたずさわっていただいている方々の運動の現場にも数多く掲出をいただいております。

読書推進運動協議会では、今年の春、協議会の「X」を開設いたしました。読書推進に関する情報を発信してまいりました。このたびの読書週間に際し、初日に投稿



開式のあいさつをする野間会長

をいたしましたところ、短期間に30万を超える閲覧をいただきました。読書週間に対する関心の高さを実感しております。

読書推進運動協議会は、本を読むことのすばらしさを訴え続け、従来にも増してすべての方に本と親しむきっかけを提供してまいります。

読書の普及に尽くされているみなさまの、いつそのご支援とご協力をお願いしまして、ごあいさついたします。



## 祝 辞

文部科学省  
総合教育政策局 地域学習推進課  
図書館・学校図書館振興室 専門官

### 毛利るみこ

文部科学省地域学習推進課図書館・学校図書館振興室の毛利と申します。お祝いのごはをひとこと述べさせていただきます。まず本日受賞されたみなさま、まことにめでとうございませう。

受賞されたみなさまは、各地域

において長年読書活動の推進に精力的に取り組まれ、地域における読書活動の普及に大きく貢献されてこられました。本日の受賞について、心からお祝いを申しあげるとともに、みなさまの読書普及への熱意ある取組に対し、深く敬意を表します。

読書活動は、子どもが、ことばを学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで欠くことのできないものです。急激に変化し、予測困難な時代において、必要とされる資質や能力を育む上で、社会全体で読書活動を推進していくことは、きわめて重要であると考えております。

子どもの読書活動の推進については、昨年3月に閣議決定された第5次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」において、「不読率の低減」、「多様な子どもたちの読書機会の確保」、「デジタル社会に対応した読書環境の整備」、「子どもの視点に立った読書活動の推進」の4つの基本的方針を掲げています。文部科学省としても、本計画に基づき、みなさまとともに、未来の社会を担う子どもの読書活動の推進に努め

てまいりたいと考えております。

また、読書環境の整備にあたり、視覚障がい等の障がいがある方、読書や図書館の利用に困難をとまなう方への配慮が必要です。今年度は「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」（読書バリアフリー基本計画）の最終年度にあたります。文部科学省としましては、次期計画の策定に向け、読書バリアフリーを取り巻く環境や社会の変化を踏まえながら、関係者協議会での議論を進めてまいります。

読書推進運動に取り組まれているみなさまにおかれては、子どもたちの豊かな読書環境の実現のため、これまでのご知見やご経験、そして専門性を生かしていただき、引き続き読書活動の推進にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年度で第54回を迎えられました。この「野間読書推進賞」をはじめとする読書活動の推進に、長年にわたり取り組まれていらっしゃる公益社団法人読書推進運動協議会および関係者のみなさまに心から敬意を表するとともに、本日もご参集のみなさまますますのご活躍とご健勝を祈念申しあげ、お祝いのことばいたします。

# 野間読書推進賞を受けて



だれもが本でわくわく  
ドキドキできる社会を

デイジー岩手

会長 成田優子(岩手県)

このたびは野間読書推進賞という荣誉ある賞をいただくことができ、多くのみなさまよりお祝いのおことばをかけていただき、たいへんうれしく思います。デイジー岩手の会を代表しまして心より感謝申し上げます。

デイジーは、Digital Accessible Information Systemの頭文字DAISYのことです。

視覚障がい者や印刷物を読むことが困難な人のために、デジタル録音図書の国際標準規格として開発されました。これにより、専用の再生機器やアプリを使用するこ

とで、目次や索引から読みたい章やページを見つけて、すぐに再生できるようにになりました。

会の設立当時はカセットテープ図書の音源をパソコンに取り込むことから始めなければなりませんでしたが、今では音声訳さんが直接パソコンにマイクをつないで録音して、音源ファイルもUSBでやり取りできるので、編集作業へのとりかかりが以前より早くなりました。

贈呈式の際にもお話しさせていただきましたが、私自身、視覚に障がいがある弱視です。幼いころから目の手術のために入院生活を繰り返しました。退屈な入院生活のなかで、唯一の楽しみが読書でした。本を夢中で読んでいる間は、自分が病室にいることも忘れて、主人公になりきって、わくわくドキドキの本の世界に入り込んでいました。そんな、かつて自分が体験したわくわくドキドキを、ひとりでも多くの目の不自由な子どもたちに、一冊でも多く届けたい。これが、今、私が会の活動を続けていられる原点かなと、思っています。



ます。

贈呈式のあとに野間会長とお話しさせていただく機会がありました。視覚に障がいがある人にVRゴーグルを用いて、本の世界を疑似体験するという試みが行われたそうです。将来の読書環境にいろいろな可能性が期待できる、たいへん興味深いおはなしでした。障がいの有無に関わらず、すべての人が利用しやすい形式で本の内容にアクセスできるようにと成立した、通称「読書バリアフリー法」がもつと社会に浸透して、子

どもから大人まで、だれもが家庭で、学校で、図書館で、書店で、ネット上で、記憶に残るすてきな本に出会ってほしいと思います。



【一】 デイジー岩手のみなさん  
【二】 パソコンを使つての編集作業。DAISY図書の規格変化、編集ソフトのバージョンアップなどにも、対応が必要です。  
【三】 毎月の定例会では、より使いやすいDAISY図書作成のために、意見を交換、利用者の声も紹介されます。



## 第54回 野間読書推進賞贈呈式



→表彰を受けるデイジー岩手の成田さん



→自身の読書体験、DAISY図書への思いを紹介されました

# 野間読書推進賞を受けて



感性豊かな子育てに  
自然・人・読書のふれあいを

勝冶 糸 (鹿兒島県)

このたびは栄誉ある賞を授かり、心より感謝申し上げます。

贈呈式に続き、祝賀会は同じ理念を抱き歩み続けられている歴代受賞者との交流、心置きなく過ごすな時を過ごさせていただき、老いを恐れず明日の歩みに再びチャレンジを！と胸打つことでした。ありがとうございます。

毎週、保育所・小学校に読み聞かせに出かけ、ページをめくり「一匹の子ネズミが穴に落っこちて、助けて〜」と続きを読む間もなく、

「助ける、助けるよ」と声を大にして立ちあがる子どもたち。次の日も「アイスクリーム」と読む絵本に「あく食べたい」。感受性強い子どもたちの素直な声に、内面のぬくもりを抱きながら日を重ねていたが、この感動を「わが愛し子を育てているお母さま方に！」と、まずは井戸ばた仲間へ声をかけるや、日を重ねる間もなく20人、30余人。1996年サークル「にじいろの花」結成!! 一同は読書体験などまったくない白紙。しかし、やってみよう！ やってみよう！の意欲と熱意ありて、グループ育成に大きな力となり「豊かな子ども像」をめざす活動計画の立案完成。

まずは「学習会」。読書とは、の語らいの途中、ひと息休憩、お茶飲みタイムでもはき出すことば、かん高い笑い声もすべて読書一色！子育て親の活力にしたる。実践活動の日々の日記(声)。

本読み朝の活動にも家族生活にメリハリが出た。保育児(5歳も)くつ下、帽子に、えらいね、お兄ちゃんになった！家族に情緒あふれる

ることばが生まれた。などなど。

年重ね「にじいろの花」の新聞掲載。学期ごとに届く子どもたちのお礼の冊子などで仲間の活動意識も高まり、新しい体験「出前活動」始まる。町内外、離島、へき地と泊りがけて活動を広め、他校との交流を深め一同称賛しあう。

仲間ふれあい(集い)が大好き。魚が取れた、ミカン狩りなどと名づけ、おしゃべりの一夜がたびたび。班長の指名によりBさんが「読書時間には余裕ない。しかしリーダーがある書の一文を語ってくれよ」と、大切に聞いています。そのことを家族や、他の集い

る。そのことを家族や、他の集い



の場で話しています。私にとつては大事な学習のひとつです。ありがとうございます「みなさんえらいわね。聞く・話す・つげる・広める、共に拍手。サークル活動を通して一同が社会人として知識、教養いわる内面の高揚を高めることを願い、「リーダーの一言」の綴りは80余文になっている。人生の意義は「何をしたか、ではなく何をなさるか、と胸焦がす」(中島ひで書)。

大勝「にじいろの花」の種に新しい芽が出、「おはなし玉手箱」二世が誕生。親子読書の日も定め定着。母校発展にますます期待する。一老人先輩のあゆみ

大勝「にじいろの花」の種に新しい芽が出、「おはなし玉手箱」二世が誕生。親子読書の日も定め定着。母校発展にますます期待する。一老人先輩のあゆみ

一老人先輩のあゆみ



「上・右」小学校での読み聞かせは、現在も週一回！子どもたちの素直な反応が、大きな活力となります

## 第54回 野間読書推進賞贈呈式



「勝冶さんへの賞状贈呈



「手振りを交えて、受賞の喜びと奄美の魅力を語ります



# 野間読書推進賞を受けて



図書館とともに歩んで

明徳館ボランティアの会  
総代表 青木美貴子(秋田県)

このたびは、栄誉ある野間読書推進賞奨励賞を賜りましたこと、明徳館ボランティアの会一同、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

明徳館ボランティアの会は、5グループで構成されております。今後の活動の課題等も含め、各グループを紹介いたします。

〈おはなしの会〉は、館内では毎週土曜日の「おはなし会」と、春と秋の「訪問おはなし会」を実施。館内事業以外では、出張実演活動を積極的に行っており、ほかにも年2回ほど小学校から講師依頼が無いこむなど、館内外ではほぼ広

い活動を展開しております。

〈補修〉グループは、補修技術の向上をモットーに活動中ですが、でも、なにぶん、メンバーの高齢化が進み、身体機能の低下するなかでの活動は「書架整理」もまったく同様です。「高齢化」で共通するふたつのグループ活動ですが、図書館利用者のためばかりか、自身の心の張りとなるものであると、精出しております。

以前、絵本から大型紙芝居を作ることが可能だった〈創作〉グループは、著作権の問題が取りざたされ始めてからは、よりいつそうのオリジナル性を求められるようになり、熟考を重ね、完成までに1年という時間を要する作品もあります。

5グループのなかで、もつとも早く活動を始めた「レモン」の会。視覚障がいの方や、ご自身での読書が困難になっている方に、朗読サービスの提供を行っています。活動量が減っている現状に、朗読活動の存在が危機に瀕している」と、メンバーは話します。「AIも開発された当初からみると、人

間味のある声に近づいていて、私たちはこれまでの「手づくり感」いっぱい活動にこだわっているようにもなることだろうか……」

さて、ここまで各グループを紹介いたしました。5グループが集合し、年1回実施の「交流研修会」があります。今年も立派な図書館がなにかと関心を集めた、国際教養大学を訪ねました。

図書館の開館とほぼ同時期に発足した明徳館ボランティアの会は、昨年、40年を迎えました。少



し先に「半世紀」という道標も見えます。5グループ、歩調をあわせ、前進あるのみです。



5つのグループがそれぞれの活動を進めながら、ひとつの図書館とともに歩むのが、明徳館ボランティアの会の特徴です。  
〔一〕 2022年の交流研修会  
〔二〕 補修グループの作業風景  
〔三〕 2023年に図書館とともに迎えた40周年を記念しての展示。各グループ手づくりの展示で、活動を紹介



## 第54回 野間読書推進賞贈呈式



→総代表 青木美貴子さんへの賞状贈呈



→スピーチでは、会の先輩たちへの感謝のことばも



# 野間読書推進賞 賞状・副賞（盾）のご紹介

野間読書推進賞の賞状は、受賞者ごとに業績をギュッとつめて用意します。  
副賞の盾のレリーフのタイトルは「虹」。虹の女神「アイリス」がモチーフです。  
贈呈式の前、控室での受賞者撮影のあと、各受賞者・同行者でパチリ！式の前から笑顔があふれていました。



会長の成田さんと甥の小池さん



デイジー岩手

勝治 衆さん



勝治さんご一行と鹿児島県立図書館 東條館長(左)



事務局長 最上さん、総代表 青木さん、事務局 谷藤さん



明徳館ボランティアの会

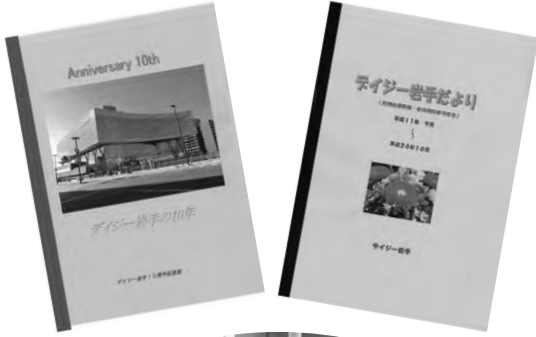


受賞者の活動報告コーナーには、活動の写真や記念誌、子どもたちからの感謝の手紙などを展示しました

おかわり!

# 受賞者活動紹介 & 贈呈式・祝賀会

受賞者からいただいた活動写真、贈呈式・祝賀会の様子をもう少しご紹介します



### ○テイジー岩手

【左上】110周年記念誌と利用者の声をまとめた冊子

【左中】左より成田優子さん、伊藤忠記念財団の田中文さん、岩手県立視聴覚障がい者情報センター所長の大坊真紀子さん

【左下】現在高校3年生の小池陽仁さんは、成田さんの甥。スマートなエスコートに会場中が感心しました

【上】熱心な討議が交わされる毎月の定例会





○明德館ボランティアの会  
 【上】左から最上誠子さん、青木美貴子さん、野間会長、谷藤由紀美さん  
 【左】40周年記念誌  
 【右上】大型紙芝居作りもいよいよ大詰め！色塗り作業中の創作グループのメンバーたち  
 【右】記念展示の準備をするメンバーたち



最後にみんなで記念撮影！  
 左より勝治孝人さん（勝治さん甥）、田中希代子さん（勝治さん姪）、成田さん、小池さん、勝治さん、谷藤さん、青木さん、最上さん



○勝治桑さん  
 【右ページ】大勝小学校での読み聞かせ  
 【上】成田さんと笑顔で  
 【左】祝賀会は「にじいろの花」のユニフォームで登場！  
 【下 左→右】奄美の宴会に欠かせない島唄『六調』にあわせて踊る勝治さん。会場中が手拍子と笑いに包まれました





# 野間読書推進賞 これまでの受賞者からの近況報告

今年の贈呈式にあわせていただいた、これまでの野間読書推進賞受賞者からのメッセージ、近況報告をご紹介します(文章を一部、割愛しています)。

## 第25回 1995年

個人 板野町読書会(橋本雅公さん) 徳島県  
\*受賞されたみなさまに、心よりお祝い申しあげ、ますます活躍されることを祈念いたします。

## 第26回 1996年

個人 権勝千秋さん 佐賀県  
\*ご盛会、祈念いたします。

## 第30回 2000年

特別賞 大塚笑子さん(朝の読書推進協議会)  
\*受賞されましたみなさま方に、謹んで心よりお喜びを申しあげます。今日のこの喜びを励みに、なおいつそ、ご活躍されますことを、ご祈念いたしております。

## 第31回 2001年

団体 大分子子どもの本研究会(甲斐榮さん) 大分県  
\*受賞されたみなさま、おめでとうございます。

## 第32回 2002年

個人 吉田まさ子さん(かべや文庫) 福島県  
\*私の文庫も、シルバー文庫となりましたが、なんとか続いております。

## 第34回 2004年

団体 ひこね児童図書研究グループ(種橋尚子さん) 滋賀県  
\*私たちが高齢になりました。でも、読み聞かせの活動は、力のあるかぎり続けます。

## 第35回 2005年

団体 大欠なかよしバス図書館(虎渡進さん) 秋田県  
\*継続、すばらしいですね。みなさん、ご受賞おめでとうございませう。当方は、地元小学校があるときは全校で来館してくれたのに、今、地区の子どものいる家庭が一家族になりました。50周年を目前にして、たいへん残念に思っています。

## 第36回 2006年

個人 前田敏子さん(一般社団法人八戸市読書団体連合会) 青森県  
\*受賞おめでとうございませう。私は受賞が大きな力となり、がんばっています。

## 第37回 2007年

個人 清水達也さん(遊本館) 継承者 清水喜久栄さん 静岡県  
\*今年6月15日、遊本館は開館30年を迎えました。『遊本館だより』で関係者の祝辞を掲載。イベントは催しませんが、1年間、来館会員にT(達也)とN(奈緒子)のいづれかを選んでもらい、記念品にします。

今年度から、順番で回ってきた青森県読書団体連絡協議会の会長を引き受け、先日は県教育委員会主催の「あなたが薦める青春の一冊」というテーマで募集した中学生、高校生の作品の審査員をいたしました。子どもたちの本から得た感想を読んで、本力を再認識いたしました。

八戸市読書団体連合会では、11月19日に県の委託事業『親子ふれあい読書アドバイザー』養成講座を開催します。また、令和7年2月9日開催の八戸ブックセンターとの協働事業『池上彰氏の講演会と中・高校生への池上氏への質問等』の準備に入りました。当会の紹介パネルと子どもたちへの読み聞かせコーナーです。

個人 吉永千草さん 熊本県  
\*受賞者のみなさま、おめでとうございませう。図書館での読み聞かせと、学校(小学校)のお昼休みのおはなし会を、楽しみながら続けております。

個人 前田敏子さん(一般社団法人八戸市読書団体連合会) 青森県  
\*受賞おめでとうございませう。私は受賞が大きな力となり、がんばっています。

今年度から、順番で回ってきた青森県読書団体連絡協議会の会長を引き受け、先日は県教育委員会主催の「あなたが薦める青春の一冊」というテーマで募集した中学生、高校生の作品の審査員をいたしました。子どもたちの本から得た感想を読んで、本力を再認識いたしました。

八戸市読書団体連合会では、11月19日に県の委託事業『親子ふれあい読書アドバイザー』養成講座を開催します。また、令和7年2月9日開催の八戸ブックセンターとの協働事業『池上彰氏の講演会と中・高校生への池上氏への質問等』の準備に入りました。当会の紹介パネルと子どもたちへの読み聞かせコーナーです。



第21回の受賞者 小林静子さん(左)と勝治さん

ナーを作り、本の町に相応しい活動のお手伝いをしていきます。当会所属の14団体はそれぞれ毎月1回、2か月に1回の読書会を開催しております。

**奨励賞 認定NPO法人 高知こどもの図書館 (岡本高美さん) 高知県**

\*ご受賞のみなさま、おめでとうございます。地域に根ざした活動や、読書の楽しさを広げる活動を継続してこられたご功績に、心から敬意を表します。当館も継続の力を大切に歩んでまいります。

**第37回 2007年**  
団体 紫藤律子さん (石川県読書会連絡協議会) 石川県

\*私も90歳になりました。

**第38回 2008年**  
団体 図書館朗読ボランティアの風 (笹井京子さん) 山梨県

\*受賞されたみなさま方、おめでとうございます。受賞はともども励みになると思います。私たちも28年、山梨県高齢化率一番の町でがんばっています。

**第39回 2009年**  
団体 美原読書友の会 (奥田歌世子さん) 大阪府

\*みなさま方のご活躍、まことにうれしく、感動しております。とてもとてもなつかしく、うれしく

拝見いたしました。

個人 岡光さん (読みかたりグループつくしんぼ) 秋田県

\*退職して20年、読み聞かせを楽しんでます。選書に時間がかかりますが、すてきな絵本を子どもたちと楽しむ時間が、最高に幸せです。2歳から読み聞かせの時間にひたつている、東成瀬村の子どもたちは、聞き上手です。それが、学習態度にも活かしているようです。

個人 庄司一幸さん (藤沢周平の作品を楽しむ会) 福島県

\*藤沢周平の作品を楽しむ会は10月で16年半となりました。久米正雄研究会は2年となりました。今後も読書活動を通じた地域コミュニケーション(読書コミュニティ)づくりに努力していきます。

特別賞 永井伸和さん 鳥取県

\*読書の今を地域から一歩一歩、知の地域づくりを求めて、認定NPO法人本の学校の活動が、絶えることなく続いています。

**第40回 2010年**  
団体 青森市読書団体連絡会 (西村恵美子さん (第45回個人受賞)) 青森県

\*受賞のみなさま、読書推進のメンバーとして、心よりお祝い申し上げます。今、ななが発展なのか、

ななが課題なのかを検証して、変容の激しい時代に応えて活動をともししていきたいでしょう。

**第41回 2011年**  
団体 みきおはなし会\*絵本の森 (西尾美智子さん) 兵庫県

\*会の発足15年目より、絵本の研修会の記録を残すため、『月刊絵本の森』を発行してきました。図書館(3館)の窓口に置いていただき、今月で24号。よく続いたねと、仲間の感想です。来春をめどに、記念誌にしたいと、今、編集たけなわです。これもみなさまの活動が刺激になったことです。がんばります。

個人 小川範子さん (宇都宮子ども本連絡会) 栃木県

\*受賞者のみなさま、おめでとうございます。贈呈式でお会いできることを、楽しみにしております。

奨励賞 一般財団法人 鹿児島県青年会館 艸舎 (松下育郎さん) 鹿児島県

\*野間読書推進賞をいただいたあと、読書活動を継続しております。コロナ後中断していましたが、今年は久しぶりに「親子でたのしむ絵本」に取り組みます。

**第42回 2012年**  
団体 てんとつむし文庫 (段千恵子さん) 静岡県

\*コロナで文庫に来る子どもたちは激減! 少しずつ、回復していきます。

団体 関音訳の会しおん(波多野いと子さん) 岐阜県

\*ご受賞おめでとうございます。日ごろのご活躍、ご尽力の賜物と思わせていただきます。お祝い申し上げます。今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

奨励賞 清水葵子さん(天平町点字の会)どんぐり、麦の会 栃木県

\*受賞者のみなさま、おめでとうございます。貧困、障がいなどによって、読書が困難な状況にある人たちがいます。みんなで知恵を



出しあつて、読書の楽しみ、本の力を届けましょう。

**第43回 2013年**  
団体 絵本読み聞かせの会 おむすびころりん (白内恵美子さん) 宮城県

\*受賞されたみなさま、おめでとうございます!

おむすびころりんは、小学校の朝読書の時間や生涯学習センター、児童クラブで、絵本の読み聞かせを続けています。ほんとうに楽しい時間で、みんなの生きがいになっていきます。音訳ボランティアも3人、いますよ。

団体 図書館ボランティアサークルかやのみ会(東谷恵子さん) 山形県

\*受賞者のみなさま、おめでとうございます。日ごろのご活動、ほんとうにご苦労さまです。本で繋がる人と人、子どもとお年より。これからもともに、がんばっていきましょう!

**第44回 2014年**  
個人 成田和子さん 宮城県

\*受賞されたみなさま、ほんとうにおめでとうございます。

個人 寺澤敏子さん 群馬県

\*受賞おめでとうございます。ひとりひとりの子どもが、豊かな人間に成長することを願って、たく

第52回受賞の萌えぎの会と伊藤忠記念財団のみなさん

さんのことばを、本を届けてまいりましょう。

群馬県公式YouTubeで、絵本の読み聞かせのポイントを紹介する動画を配信をいたしました。未就学児向けに作成した『どのほんもようかな94冊』を紹介しながら、本の選び方、読み方、読み聞かせの大切さなどをお話いたしました。26分程度の動画です。

奨励賞 鈴木富夫さん(けやきぶんこ) 新潟県

\*久しぶりに東京に出てきて、人の多さにオロオロしています。

第45回 2015年

団体 特定非営利活動法人 岩手点訳の会(横澤忠さん) 岩手県

\*今回の団体の部に「デージー岩手」とあり、とてもうれしく拝見しました。隣の部屋で、視覚障がい者へ図書等の文字情報を音声のデジタル・データ媒体として届ける作業をしている「仲間」です。今年が会結成25周年になると聞いていただきましたので、すばらしい贈りものになりましたネ。受賞、本当におめでとうございます。「デージー」の説明をみなさんにしつかりとお伝えしてきてください。

1964年に岩手に点字図書館が開館してから60年となり、今は岩手県立視覚障がい者情報セン

第51回受賞の木刈親子読書会のみなさんは「勝治さんを目標に！」



ターとなつていますが、その5年前に組織された岩手点訳奉仕会(現〓岩手点訳の会)の歴史を振り返るため「還暦を過ぎた点字図書館のこと」などを勉強したり、視覚障がい当事者ご夫妻の話を知りたり、という例会を開催しながら、点字・点訳の知識や技術の向上に励んでいます。岩手県出身の大谷翔平選手の所属チーム名を「点字」で読んで、「ロジャースじゃなかった」ことがわかったという

当事者の話を聞き、文字である「点字」の重要さを再認識し、これからも正しい文字情報を伝達していくと、確認しあっています。

個人 野々上穂子さん(大阪府子ども文庫連絡会) 大阪府

\*受賞、おめでとうございませう。今年度は、障がい者サービスに向けてのご受賞もあり、たいへん有意義と感じています。多様な時代にあつて、子どもと本をつなぐ日々の活動はますます大切になります。いろんな地域の人たちと、子どもの本を通じてつながり、広がっていくことをうれしく思います。これからのご活躍を心より願っています。

第46回 2016年

個人 平田恵美子さん(一般社団法人 沖繩県子ども本研究会) 沖繩県

\*現在は、孫たちの通っている小学校での読み聞かせ年2、3回程度と、城北こども園で月1回の読み聞かせをしています。子どもの笑顔は、ほんとにすてきです。

第47回 2017年

団体 彦根おはなしを語る会(辻まゆみさん) 滋賀県

\*受賞、おめでとうございませう。みなさまのご活躍を毎年楽しみにし、励みにしております。全国各地のみなさまの力が、人の生きる力になると、信じております。

第48回 2018年

団体 ねりま地域文庫読書サークル連絡会(田倉京子さん) 東京都

\*受賞おめでとうございませう。私も2018年、ちょうど50周年を迎えるときに、受賞させていただきました。現在もそれを励みに活動を続けております。みなさまの今後のご活躍をお祈り申し上げます。

団体 たけのこ文庫(草野三保子さん) 福岡県

\*受賞者のみなさま、おめでとうございませう。ますますのご活躍を願っております。

第49回 2019年

団体 諫早コスモス音声訳の会(中路美知子さん) 長崎県

\*受賞者のみなさま、おめでとうございませう。おたがい、元気に活動を続けてまいります。

本会は、今年度6名の新入会員を迎え、34名で活動しています。11月には、リスナーさんとの交流会を行い、意見交換、オカリナ演奏やゲームなど、楽しみました。

個人 村上拓子さん(家庭文庫ぼと) 広島県

\*受賞されたみなさま、まことにおめでとうございませう。家庭文庫ぼととの活動が少しずつ変わってきて、出向っていく読

みかたりが増えてきました。状況を見ながら、子どもたちに本を届けることは変わらないので、引き続き楽しんで、子どもたちとの時間を過ごしたいと思っております。

個人 今井登美子さん(読み聞かせグループ「ゆめくらぶ」) 大分県

\*受賞なさったみなさま、まことにおめでとうございませう。日々の努力の賜物ですネ。私たち「ゆめくらぶ」も、活動のなかに喜びを見つけ、子どもたちと絵本、紙芝居、パネルシアター、わらべ歌と楽しんでおります。

第50回 2020年

団体 おはなしの木(土田さゆきさん) 宮崎県

\*ご受賞のみなさま、おめでとうございませう。コロナで開催ができなかった「記念おはなし交流会」を12月に企画することができました。これからも、子どもたちに絵本や物語を生の声で届けていきたいです。

特別賞 三島読書グループ連絡協議会(森川啓子さん) 愛媛県

\*ご受賞、たいへんおめでとうございませう。

第51回 2021年

団体 木刈親子読書会(熊谷徳子さん) 千葉県

\*木刈親子読書会はもうすぐ40周



年を迎えます。会員の親子50数名で、チバニアンバス旅行を企画して、バスと小湊鉄道を利用して行ってきました。記念誌の制作やパーティーを考えている最中です。

団体 石垣市文庫連絡協議会(新城由利子さん) 沖縄県

\*受賞、おめでとーございます。子どもたちの豊かな未来を願う多くの仲間、拍手を送ります。

石文連は昨年、40年のあゆみ記念誌を刊行し、今年、八重山管内の学校・保育園へ寄贈し、喜びの声をいただいています。これからも地道な活動を続けていきたいと思ひます。

個人 吉井久子さん(家読姉、ケムケム、ゆめどん、佐賀貞親と子の読書会協議会) 佐賀県

\*受賞者のみなさま、おめでとーございます。

小学校(3か所)の朝の読み語りは継続。ケムケムでの活動は、千代田分館での3歳児未満のおはなし会を2か月に1回して、夏休み、クリスマスおはなし会に同時出演。ゆめどんでは、朗読劇大会に出演。家読姉は毎月2回開館し、七夕、クリスマスおはなし会、高齢者向けおはなし会、本の宅配も継続中です。地域に読書の輪が

広がることを願っています。

第52回 2022年

団体 萌えぎの会(猿木尚子さん) 群馬県

\*ご受賞のみなさま、心よりお祝い申しあげます。

萌えぎの会は本年、50周年を迎えることができました。このご縁を支えとし、今後も絵本を介して

たくさんの出合いを求め、活動していきたくと思ひます。

団体 近江八幡おはなし研究会(工藤雅子さん) 滋賀県

\*みなさまのご活躍、心よりうれしく思ひます。このたびの表彰、おめでとーございます。

個人 渡邊満洲子さん(きらきら文庫、津貝語りの会) 愛知県

\*60歳からの出発として、1994年「きらきら文庫」を開

設し、今年で30年。私は90歳になりました。体調もよくなり、読み聞かせを続けています。推進賞を

いただいたことが心の励みになり、継続の力をいただいています。

みんなに支えられ、今までやってきたことに感謝しています。生命

の続くかぎり、前向きに歩み続けていきたいと思います。

奨励賞 法崎よし子さん 大分県

\*受賞おめでとーございます。少

子化の著しい昨今の活動は、心細

くなることもありすが、ひとりでも参加してくれる方がいるかぎりは続けていきたいと思つております。

第53回 2023年

個人 原田紗千子さん(ぶんこ) 毛) 長野県

\*受賞おめでとーございます。昨年いただいた励ましと感動を

力に、今年は保育園、学校、未就学児の会など、対面で活動ができました。「文庫のつどい」では、「ク

リスマスにはどんな本を」「宮沢賢治を読もう」「てぶくろ」平和

をねがって」……など、本の上き、大切さを味わいました。

奨励賞 やくも朗読サークル(太田幸恵さん) 北海道

\*昨年いただきました賞状と盾は、今もなお、図書館に飾つてあります。10月5日、13回目の宮沢

賢治朗読会を開催いたしました。「ゼロ弾きのゴースト」(チェロの

生演奏つき)と「カイロ団長」です。微力ですが、一同、小さな

町から読書推進運動を進めていこうと思つています。

奨励賞 鹿兒島嚴さん 秋田県

\*昨年いただいた賞金で、(紙芝居用の)「自転車新調いたしました。ありがとーございました。

■東京子ども図書館設立50周年

設立50周年記念の上映会を開催  
クラウドファンディング挑戦中!

第30回野間読書推進賞 特別賞

受賞者でもある、公益財団法人東京子ども図書館は、11月18日(月)なかのZERO西館小ホール(東京都中野区)で「設立50周年記念 上映会&バザー」松岡享子お話の種まきをした人ー東京子ども図書館の活動をとおして」を開催した。

「松岡享子 お話の種まきをした人」は、同館名誉理事長の松岡享子さんの本との出会い、図書館員としての仕事、東京子ども図書館への思いを、松岡さんとともに歩み、学びあってきた人たちへのインタビューを中心に紹介した作品。DVDとして、同館より販売されている。監督は同館の広報映像およびドキュメンタリー映画『子どもに本をー石井桃子の挑戦』を撮影した森英男さん。

上映後の森さんと同館理事長の張替恵子さんのトークでは、「今回の映像に入っていない多くの人のインタビューがある。いずれ、日本の語り手、おはなしの歴史としてお見せしたい」との抱負も語

られた。

会場では上映作のDVD、50周年記念誌、冊子『おはなしのろうそく』池田正孝写真カレンダー』などの出版物だけでなく、50周年記念グッズ、手づくりのクリスマスリース・ぬいぐるみ・布製品などのバザーも開催された。

また、同館では11月18日(月)から2025年1月31日(金)まで、資料保存のための換気設備強化、書架の増設、エレベーターの交換など大規模な施設改修を目的としたクラウドファンディングを実施している。支援額に応じて、オンライン内覧会への参加や、限定グッズ、おはなし会への招待などの返礼品も用意されている。



【左】「松岡享子 お話の種まきをした人」  
【右】クラウドファンディングQRコード



### 読進協、今年はクラウドファンディング、SNSなど、新しい試みに挑戦しました

## 反省、励まし、驚きを糧に これからも「読書週間」「こどもの読書週間」の 普及に努めます！



読書推進運動協議会は、今年初めてを試みとしてクラウドファンディングを実施いたしました。「こどもの読書週間」にあわせて、4月24日から5月24日、「読書週間」のタイミンングの10月25日から11月22日の2回でした。

「こどもの読書週間」「読書週間」の実施、運営には多額の費用がかかるのに対して、読書推進運動協議会の会費収入は減少しており、各種経費は増加、法人として赤字状況です。「こどもの読書週間」「読書週間」の安定的な継続に危機感をいだいての実施でした。

制作したサイトページでは、春はおもに「読書週間」の歴史の価値を訴え、秋は現在時におけるさまざまな活動を紹介しました。

結果は春が37人の支援者から30万2000円のご寄付を、秋が7人の支援者から8万3000円のご寄付をいただきました。金額的には目標には及ばなかったものの、あたたかいメッセージとともに多くのご支援をいただいたことに、心より感謝申しあげます。

今回の試みを通してあらたな知見を得ることもできました。クラウドファンディングに再挑戦するかどうかも含めて、読書推進運動に取り組んでまいります。

また、例年、「読書週間」初日の10月27日には、SNSで「読書週間」が話題を集めます。今年度は、朝の情報番組が少ない日曜日であること、衆議院選挙、アメリカ・ワールドシリーズでの大谷翔平選手の活躍もあり、当会X(旧Twitter)「今日から『読書週間』の投稿へもなかなか反応がなかったのですが、夕方からじわじわと閲覧者数が増加。27日中に閲覧数が10万を超え、その後も「ポスターがステキ」「標語が心に刺さる」と、「読書週間」期間中、最後まで多くの方に拡散いただきました。11月末現在の閲覧者数は30万を超えております。

期間中、当会では図書館を中心に「読書週間」行事を検索し、なるべくリポストしましたが、多くの図書館、書店、出版社、そして個人のつぶやきが「読書週間」を盛りあげてくださることに、あらためて感激いたしました。今回は個人の投稿はリポストしなかったのですが、学校司書の方々の熱意あふれる取組にも頭が下がりました。

ホームページで公開しているしおりやポップのデータを使った投稿も多く、励まされました。SNS初心者の方の事務局、今年の経験を来年につなげたいと思います。

### 事務局報告(11月)

- ☆1日||『2023年度 全国読書グループ総覧』原稿入稿開始
- ☆6日||『出版季和室 第56回 功労者顕彰会 出席(箱根)』
- ☆7日||『第54回 野間読書推進賞贈呈式・祝賀会(出版クラブ)』
- ☆8日||『機関紙「読書推進運動」684号 入稿』
- ☆10月27日||11月9日||『2024 第78回「読書週間」』
- ☆9日||『絵本ワールドinわかやま』出席
- ☆11日||『2025「こどもの読書週間」』
- ☆11日||『機関紙「読書推進運動」684号 書』
- ☆15日||『機関紙「読書推進運動」684号 出来』
- ☆16日||『J B Y 50周年記念国際シンポジウム「いま、子どもの本は世界とどうかわるのか」および創立50周年祝賀会 出席(出版クラブ)』
- ☆18日||『若い人に贈る読書のすすめ』リフレット入稿
- ☆18日||『東京子ども図書館設立50周年記念上映会&パザール「松岡享子」お話の種まきをした人』東京子ども図書館の活動をとおして、出席(なかのZERO)』
- ☆18日||『出版クラブ 震災対策室 第2回 運営委員会 出席』
- ☆19日||『若い人に贈る読書のすすめ』リフレット書』
- ☆19日||『上野の森 親子ブックフェス 2024』(全社計画完了)』
- ☆21日||『2025「こどもの読書週間」』標語、事業委員 一次投票しめきり』
- ☆25日||『伊藤忠記念財団子ども文庫助成事業 助成先選考会 出席(伊藤忠本社ビル)』
- ☆27日||『2025「こどもの読書週間」』標語、事業委員 二次投票しめきり』
- ☆29日||『若い人に贈る読書のすすめ』リフレット 出来』

### 編集部&事務局の ひとこと

- 今年6月に桂きこばさん、11月に桂雀々さんと、上方落語、桂米朝一門から人気者の訃報が続いた。
- たいした娯楽もない北近畿の小さなまちで育った私にとって、テレビで観る落語はささやかな楽しみひとつだった。なかでも桂米朝は、その端正なたずまいと、人情味から爆笑系までオールラウンドなレパートリーが魅力でファンになった。
- 米朝さんは1925年の生まれなので、私が落語を好きになったころはまだ40代だったことになるが、テレビで観る姿はすでにまぎれもない大名人、大御所の風格を漂わせていたように思う。戦後噺家が激減し上方落語が存続の危機となるなか、その伝統を必死に守り、新たに発展させた立役者のひとりといわれている。89歳で亡くなるまで上方落語の魅力を体現する存在だった。
- 気がつくとき、ざいばさん、雀々さんの師匠の枝雀さん、正統派といわれた吉朝さんなど、米朝さんの直弟子世代も多くがすでに亡く、なんとも寂しいかぎりである。そんななか、米朝さんの長男、米團治さんが一門の中核となり、父親譲りの語り口をきかせてくれることが心底うれしく、頼もしく感じている。
- 1月に都内で米團治さんの独演会があり、チケットをとっている。演目のひとつに「代書屋」があるようで、いまから楽しみです。落語を聴くときは、心をフラットにして、噺家が演出する世界にゆつくり身をゆだねていく。上質な小説を読むのに似ていると、いつも思っている。(佐々木)